令和６年度　社会科　授業改善推進プラン

大田区立新宿小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・重要な言葉を使い、自分で学習のまとめを書くことで、知識が定着してきた。
・資料の読み方を丁寧に指導することを継続したことで、地図やグラフ、年表などの資料から必要な情報を読み取り、それを基に判断したり表現したりすることができるようになってきた。

（２）　課題

・四方位や地図記号、都道府県の位置や名称、国土の主な地形などについての知識を定着させる。
・資料から読み取った情報を比較したり関連付けたりして、そこからわかることを考え、自分の言葉で表現する力を身に付けさせていく。
・資料を基に判断したり表現したりしようとする意欲を高めていく。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和６年度結果	令和５年度結果	令和４年度結果
第４学年	目標値との比較：▼ 区平均との比較：▼		
第５学年	目標値との比較：▼ 区平均との比較：＝	目標値との比較：▼ 区平均との比較：▼	
第６学年	目標値との比較：△ 区平均との比較：△	目標値との比較：△ 区平均との比較：△	目標値との比較：△ 区平均との比較：▼

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第４学年 ・目標値を下回った。 ・生産の仕事の工程や人々のくらしの様子の変化についておおむね理解できている。 ・四方位や地図記号、商店の特徴、税金についての理解、資料の読み取りに課題がある。	第４学年 ・目標値を上回った。 ・資料をもとに人々の工夫や努力について表現することはおおむねできている。 ・地図記号や安全なくらしについて資料をもとに判断することに課題がある。	第４学年 ・目標値を下回った。 ・資料を読み取り、そこから判断したり表現したりしようとすること、調べた結果をグラフにまとめようとすることに課題がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第５学年 ・目標値を下回った。 ・都道府県の位置や名称、八方位や地形の様子などについて地図を読み取る力は定着している。 ・資料を読み取ることや、浄水場・清掃工場の仕組み、地震への備えについて理解することに課題がある。	第５学年 ・目標値を下回った。 ・防災の取組の目的について考えることや、特色ある地域の産業について適切な資料を選ぶことに課題がある。	第５学年 ・目標値を上回った。 ・資料を基に判断したり表現したりしようとする態度はおおむね身に付いている。 ・物事について適切な資料を選ぼうとすることに課題がある。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第６学年 ・目標値を下回った。 ・日本の食料自給率や自動車工場の仕組みについておおむね理解している。 ・外国の位置、日本の主な地形の名称と位置、マスメディアについての理解や資料の読み取りに課題がある。	第６学年 ・目標値を上回った。 ・資料を基に判断したり表現したりすることはおおむねできている。 ・情報の発信と受信の注意点や自然環境を守る取組などについて考えることはおおむねできている。	第６学年 ・目標値を上回った。 ・資料を基に判断・表現したり、物事について適切な資料を選んだりしようとする態度はおおむね身に付いている。

３　授業改善のポイント（観点別）

（１）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・教室にある四方位の表示を活用したり、地図を見た時に方位を確かめたりするなど、四方位を意識させる機会を増やす。 **・学習のまとめを、重要な語句を使って自分で書く活動を継続する。**	**・思考ツールを活用し、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えられるようにする。** ・社会的事象について考えたことや社会への関わり方について選択・判断したことを、文章で記述したり、資料などを用いて説明したりする活動を行う。	・ICT を活用したり課題提示の方法を工夫したりして、児童が意欲的に学習に取り組めるような導入を考える。 ・単元の中に見学や体験などの活動を取り入れる。それが不可能な場合は、ICT を活用して可能な範囲で見学・体験ができるようにする。 **・単元の終末に、学習したことを基に、生活の在り方やこれからの地域社会の発展について考えたことをまとめる活動を取り入れる。**

（２）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・学習のまとめを、重要な語句を使って自分で書く活動を継続する。 **・大陸、海洋の名称や、日本とつながりの深い国々の位置や国旗について、授業外でも触れる機会をつくる。** ・ICT を活用してグラフを重ねて資料を比較しやすくしたり、黒板に提示して常に見ることができるようにしたりするなど、必要に応じてデジタルとアナログを使い分ける。	**・思考ツールを活用し、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えられるようにする。** ・社会的事象について考えたことや社会への関わり方について選択・判断したことを、文章で記述したり、資料などを用いて説明したり、根拠や理由などを明確にして話し合う活動を行う。	・ICT を活用したり課題提示の方法を工夫したりして、児童が意欲的に学習に取り組めるような導入を考える。 ・単元の中に見学や体験などの活動を取り入れる。それが不可能な場合は、ICT を活用して可能な範囲で見学・体験ができるようにする。 **・単元の終末に、学習したことを基に、生活の在り方やこれからの国や社会の発展について考えたことをまとめる活動を取り入れる。**